

1. JA越後さんとうの概要

新潟県中越地域の信濃川左岸地帯に広がる越後平野の一端で古来「瑞穂国」といわれる水田単作地帯である。

平成13年2月、三島郡一円の3JAの合併により誕生した広域JAで、その地域条件の特性を生かした画一性に偏らない農業環境づくりをめざしている。

The graphic features a map of Japan with a callout to Niigata Prefecture, and a detailed map of the Santou region. The Santou region map shows the Shinano River and various agricultural products like rice, sake, and vegetables. It includes contact information for several branches: Koshiji Central Branch (TEL: 0258-92-3131), Hongo (TEL: 0258-41-2890), Nakano Central Branch (TEL: 0258-42-2200), and Hokubu Central Branch (TEL: 0258-74-3777). A banner at the top right promotes the 'Hotoke Maou' (Hoplight Dance) movement. A bottom right inset map shows the main store location and nearby interchanges.

JA 越後さんとう

ぼたる舞う 郷土づくり運動 実施中

未来農業 **ねっ** とわーく

■こしじ中央支店
新潟県長岡市米辺寺406-4番地
TEL 0258-92-3131

■本店
新潟県長岡市大野249番地
TEL 0258-41-2890

■中部中央支店
新潟県長岡市大野249番地
TEL 0258-42-2200

■北部中央支店
新潟県三島郡和泉村大字小島台3508-1番地
TEL 0258-74-3777

交通アクセス
・関越道長岡インターより 15分
・北陸道、中之島見附インターより 20分

JA越後さんとう
の経営理念

- ①環境に優しい未来農業をめざして
②地域とともに、地域社会との共生

設 立	平成13年2月1日、新潟県三島郡内3JAが広域合併により新設
地 区	長岡市（旧寺泊町・旧和島村・旧与板町・旧三島町・旧越路町）・三島郡出雲崎町
機 構	本店・3中央支店（北部、中部、こしじ）及び7支店 3地区営農センター（北部、中部、こしじ）
耕地面積	5,575ha（田：5,219ha、畑：356ha）
組合員数	9,715人（正組合員6,294人、准組合員3,342人）
栽培品種 構成比率	栽培面積 4,036ha ※平成25年産米 コシヒカリ（一般・魚沼米） 58.9%、こしいぶき 17.4%、酒米 13.9%、 もち米 4.9%、その他うるち 4.9%
穀物集荷 量	①米 235,110.5俵 ※平成25年産米（内コシヒカリ118,465.2、 こしいぶき41,759.9、酒米47,128.7、もち13,456.6、その他14,300.1） ②大豆 447.3（302ha） ③麦 127.1t（60ha） 共同乾燥調製施設 CE3基地（処理量 12,050t）、RC2基地（処理量 3,092t）
受託販売 品取扱高	4,583,026千円 （米：4,378,241千円、麦・豆・雑穀：88,642千円、野菜：56,396千円、 果実：4,934千円、花き・花木16,975千円、畜産物：37,139千円、その他：699千円）

※平成26年 2月 1日現在

JA越後さんとうの経営ビジョン

将来にわたり発展が望める地域農業づくり

農業

- (1) 水田農業を基幹としながら高品質で安全・安心な農産物の生産に取り組むとともに、園芸作物の普及・定着を進め、地域農業全体の生産力強化と農業所得の確保・向上により、組合員の農業経営の安定をめざします。
- (2) 多様な担い手を育成・支援し、安定的・継続的に発展できる地域農業をめざします。

組合員・地域住民の信頼に応える地域に開かれたJAづくり

地域

- (1) 組合員・地域住民の生活メインバンクとしての信用事業、生活総合保障としての共済事業、生活に密着した営農経済事業等、地域に開かれた総合事業を展開し、暮らしを応援することで利用者から満足いただけるJAをめざします。
- (2) JA事業を通じ、自然、食料、地域農業、くらしに関する生産者と消費者の相互理解と合意形成に取り組み、健康で豊かに暮らせる地域社会の実現に貢献します。

環境変化に対応しうる経営基盤の確立と活力ある職場づくり

JA

- (1) 組合員・利用者の期待に応え、環境変化に対応しうる経営基盤を確立するために、経営管理態勢の強化、経営資源の効率的・効果的運用による収支、財務の改善に努めるとともに、総合的なリスク管理によるコンプライアンス態勢を強化します。
- (2) 組合員・利用者とのふれあいを大切に、組合員とともに学び、行動し、現場でそれぞれの職員が自律的に問題解決に取り組み、チームワークのとれた活力ある職場を実現します。

営農部門の基本戦略

- 担い手・組織の育成による地域農業生産力の底上げ
- 実需要望に基づく米の品質向上と適正収量の確保
- 的確な情報発信と情報共有による組合員（生産者）との結び付き強化
- 農業経営の安定に向けた園芸振興への取り組み



↑育苗ハウスを利用したトマト養液土耕栽培



- 新たな販売戦略の策定と戦略展開による販売取扱高（集荷率）の拡大
- 総合相談員（TAC）を中心とした出向く営農相談体制の強化
- 食の安全・安心対策の強化
- 高品質・均質製品の安定供給に向けた育苗施設・共同乾燥調製施設の利用推進

経済部門の営農支援

① 予約奨励価格の設定

商品の受け渡し条件により、当用基準価格より割引
〔肥料〕 秋渡し、春渡し
〔農薬〕 春渡し

② 営農支援価格の設定

米生産計画で定めた重点品目（肥料・農薬）について
特別価格を設定

③ 肥料自己取奨励価格の設定

J Aへの自己引き取りすることで予約奨励価格・営農
支援価格から割引

④ 床土・培土工場引取奨励価格の設定

〔床土・培土〕を工場へ直接自己引き取りすることで
予約奨励価格から割引

⑤ 肥料農薬直送対策奨励価格の設定

一定以上の申し込み数量を肥料工場からの直送予約を
することで予約奨励価格・営農支援価格から割引

⑥ コスト低減対策奨励価格の設定

肥料・農薬の予約購入金額に応じて奨励金の支払い



J A 越後さんとう産米の販売状況と今後の取り組み

平成25年産米の状況と課題

- ◎稲作期間前半の高温～中干し開始の遅れによる生育調節不足
- ◎コシヒカリの幼穂形成期～出穂期における低温・少照
- ◎登熟期前半の高温条件等から、白未熟粒（心白粒）や倒伏による青未熟粒の発生
- ◎地耐力不足～刈り遅れによる胴割粒による格落ちが発生

などの理由により、早生品種では昨年に続き高い品質・収量を確保することができたものの、コシヒカリの栽培管理では課題が残る結果となった。



- 1等米比率 87.0%（コシヒカリ 82.2%）
… 新潟県平均 75.9%（コシヒカリ 72.1%）
- 集荷率（契約対比）：99.7%

<課題>

- ①「作土深確保」作土深15cmによる根域の確保（耕起時に作土深を確認）
- ②「健苗育成」適期田植にあわせた適期播種、適正播種量、的確な温度管理等による健苗育成
- ③「適期中干し開始・終了」生育量・ほ場条件にあわせた適期中干し（遅れずに開始・終了）
- ④「生育診断に基づく穂肥対応」生育診断による適期・適正穂肥（適期に適量を施用）
- ⑤「飽水管理」出穂後25日以降の最終かん水（暗渠栓開放）
- ⑥「適期収穫」機械・施設能力に応じた作付体系、ほ場ごとに収穫適期判断

「JA越後さんとう」の米づくり

管内は、海岸部から中山間地まで多様な地域が存在し日本列島の縮図のような地域です。

この恵まれた自然環境を活用し、消費者や実需者のニーズに即した安全で日本一おいしい米づくりに励んでいます。



特徴その1

～安全・安心な米づくりの取り組み～
圃場一筆ごとの徹底した栽培管理で“安心”をお届けしています。

平成25年度の栽培日誌

国民の安全・安心に対する関心が高まる中、平成15年度より越後さんとう管内では、「だれが・どこで・どのような農薬や肥料等を使用して栽培したか」がわかる生産履歴の記帳を行い、安全・安心米の生産を行なっています。

米は、育苗日誌・栽培日誌1～3の様式を用い、圃場登録をした圃場一筆ごとの生産工程管理・記帳を行い、収穫前に全ての確認作業を実施したうえで、分別集荷・保管を行い生産から出庫までトレースできるシステムを構築しています。

栽培管理状況の把握

品種コード	7 0 6	平成	2 5	年産米	特栽培米コシヒカリ	栽培日誌	1	6月上旬に回収いたします。					
栽培者コード	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9	栽培者氏名				住所			TEL				
備考	水田番号	0 0 0 1	0 0 0 2	0 0 0 3									
	地名	長岡市大野字南			長岡市大野字南			長岡市大野字南					
	地番	1000			2000			3000					
	面積	2 9 . 8 畝			1 0 . 0 畝			7 9 . 4 畝					
	前年作物	1.うるち 2.酒 3.もち 4.転作 ⇒ 1			1.うるち 2.酒 3.もち 4.転作 ⇒ 4			1.うるち 2.酒 3.もち 4.転作 ⇒ 3					
	耕耘	4 / 2 4 (月/日)			4 / 2 4 (月/日)			4 / 2 4 (月/日)					
	代掻き	5 / 8 (月/日)			5 / 8 (月/日)			5 / 8 (月/日)					
	田植え	5 / 1 0 (月/日)			5 / 1 0 (月/日)			5 / 1 0 (月/日)					
	使用苗	1.自家育苗 2.購入苗 3.直播 ⇒ 1			1.自家育苗 2.購入苗 3.直播 ⇒ 1			1.自家育苗 2.購入苗 3.直播 ⇒ 1					
使用量・栽植密度	1 8 箱(kg)/10a		5 0 株/坪		1 8 箱(kg)/10a		5 0 株/坪		1 8 箱(kg)/10a		5 0 株/坪		
作業	使用した資材等の名称	作業日(月/日)	使用量	単位	作業日(月/日)	使用量	単位	作業日(月/日)	使用量	単位			
土づくり	建路の草・有機特号	/		kg/10a	/		kg/10a	/		kg/10a			
	ワールドエースペレット	4 / 2 3	4 0	kg/10a	4 / 2 3	4 0	kg/10a	4 / 2 3	4 0	kg/10a			
茎肥	いすれか	ほたる有機基肥	4 / 2 3	3 0	kg/10a	4 / 2 3	3 0	kg/10a	4 / 2 3	3 0	kg/10a		
		有機50スーパー元肥2号	/		kg/10a	/		kg/10a	/		kg/10a		
		有機入りニューフレーバー10	/		kg/10a	/		kg/10a	/		kg/10a		
		/	/		kg/10a	/		kg/10a	/		kg/10a		
箱施用剤	いすれか	フェルテラ粒剤	5 / 8	5 0	g/箱	5 / 8	5 0	g/箱	5 / 8	5 0	g/箱		
		Dr.オリゼフェルテラ粒剤	/		g/箱	/		g/箱	/		g/箱		
水稲除草剤		ソルネット粒剤	/		kg/10a	/		kg/10a	/		kg/10a		
		ヤイバ(粒剤・豆つぶ・ジャンボ)	5 / 1 9	1 kg	/10a	5 / 1 9	1 kg	/10a	5 / 1 9	1 kg	/10a		
		/		/10a	/		/10a	/		/10a			
○日誌は鉛筆で記入下さい ○生産者確認欄はボールペン等で記入の上、押印下さい。 ○万が一きめられた資材以外を使用された場合は、申告して下さい。 ○提出前に記入内容を再度確認下さい。													
生産者確認	記載内容に間違いありません。 氏名			◎	記載内容確認	生産資材が適正に使用されていることを記載内容より検証しました。 氏名			◎	確認責任者	◎	回収担当者	◎



特徴その2

～品質向上に向けた取り組み～

品質向上“310（さんてん）運動”を展開しています。



【運動の考え方】

“天”…天(豊かな恵み)にたたえられた環境

“点”…しっかりポイントを押さえる

“展”…品質向上と運動の発展(ステップアップ)

↓稲刈り後には、堆肥等を散布し土づくりを行い、「元気な土」を作ります

↑現地研修会や現地指導会

【品質向上目標の3“てん”】

1 “てん”

⇒玄米等級比率 90%以上

2 “てん”

⇒10a当たり収量 コシヒカリ510kg

3 “てん”

⇒玄米タンパク コシヒカリ6.0%





特徴その3

～環境保全型農業の取り組み～
環境にやさしい“**未来農業**”をめざしています。

JA越後さんとうでは、経営理念に基づいた環境にやさしい未来農業を目指して積極的に取り組んでいます。平成17年3月の生産者大会では、《豊かな自然を大切に、管内全域を“ほたる舞う郷土(さと)”として、安らぎと親しみある郷土づくり運動をすすめ、「環境にやさしい農業」の拡大を図る》ことを決議しました。



平成18年度から水稻種子消毒の温湯消毒施設導入。これを機に3割減々栽培に移行し、平成23年より管内全域を対象に農薬・化学肥料の使用量を慣行栽培より削減した5割減々栽培に取り組んでいます。

→管内に設置されている看板





平成18年に導入した全国初の 連続投入方式 水稲種籾温湯消毒処理施設



平成18年産から管内で使用される水稲種子消毒については、全量農薬を使用しない温湯消毒処理に切り替え、廃液の出ない環境に配慮した将来に持続可能な農業に取り組んでいます。

④脱水処理した種もみは、除湿台車に吊るされ防湿専用の部屋に並べ、病気やカビが発生しないよう、約18%まで水分を落として農家に届けられます。

①4kgでネットの袋に詰められた種籾をハンガーレールのフックに吊下げて、お湯(60℃)を張った水槽に浸けます。ベルトコンベアのように、長さ3mの水槽を10分間かけて移動し、種籾の殺菌を行います。

②消毒が終わった種もみが休眠から目覚めて発芽しないよう、そのまま隣の冷却槽(約10℃の冷水)に移し、冷やします。

③冷却された種籾は高速遠心分離脱水機にかけ、一定の水分まで脱水して除湿設備の負荷の低減を図ります。





平成26年度 環境保全農業実践推進テーマ！

JA管内全域で化学合成肥料・農薬を新潟県が定める使用基準より5割削減した

5割減減栽培の継続

に取り組んでいます。

平成23年度から実施している全域での5割減減栽培を継続して取り組み、環境にやさしい米づくりを進めます。

また、環境保全を意識した活動をPRすることで良品米産地の価値を発信し高めます。加えて、現行の生産目標数量配分制度での環境保全枠の獲得や、新しい環境に関わる施策への参加を容易にし、所得の向上につなげていきます。

★5割減減栽培取り組みのガイドライン：

◎全域で使用する肥料・農薬を削減し統一すること
地域における環境負荷の軽減と生産コストの大幅削減を目指します。

◎適正な栽培による品質・食味の維持、向上を目指すこと
5割減減という限られた条件の中で、品質・食味のさらなる向上を目指します。

◎農産物の安全確保のため、記帳運動を引き続き行うこと
適正な5割減減栽培の証明と消費者等への説明責任のために、生産工程管理を活用します。



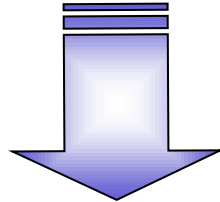
↑ 棚田から望む風景

2. リモートセンシング事業への取り組み

平成12年～14年

越路地区におけるリモートセンシング技術の確立

- (1) 精度の高い解析
- (2) 多品種への適用
- (3) 研究機関による認証



平成15年～23年

水稲品質解析の有効的な利活用・・・酒米（五百万石）に実用開始

- (1) 品種別の適期刈り取り、分別集荷、有利販売
- (2) 的確な施肥方法、肥培管理の検討材料
- (3) 生産者の高品質米に対する意識向上
- (4) 来年度への品質指標

